# 学校支援事業

**自治体名**
岩手県野田村

**学校数**
小学校1校　中学校1校

**震災後の地域の状況・仮設住宅数**

「安全・安心で活力あるむらづくり」を理念とし、「防災まちづくり」「生活再建」「産業・経済再建」の基本方針のもと、復興、そして発展へ向けて動いている。仮設住宅数は、村内に5地区 165 世帯。

## 野田小応援隊『ひかり』 ～学校は、地域の希望の光～

**取組概要**

| 実施形態（該当に○） | 自治体単独実施 | 団体等との連携実施 | 大学との連携実施 | （連携している団体等・大学の名称） |
|---|---|---|---|---|
| | ○ | | | |
| **実施主体・場所等** | **コーディネーター数** | **ボランティア延べ人数** | **年間実施日数（回数）** | **活動場所** |
| | 1 | 349 | 41 | 野田村立野田小学校 |

**活動内容**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 学校支援 | 学習支援 | 部活動指導 | 美化・環境整備 | 登下校指導 | 学校行事・その他 |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 学校と地域の協働学習 | 復興学習 | 防災教育 | 伝統文化・芸能 | 職業体験・キャリア教育 | イベント・行事・その他 |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 放課後等支援 | 学習支援 | 体験・交流活動 | 遊び・スポーツ | 児童クラブとの連携 | その他 |
| | | | | | |
| 家庭教育・保護者支援 | 家庭教育講座 | 親子参加行事 | サロン・相談対応 | 家庭訪問相談 | その他 |
| | | | | | |
| 地域課題に応じた学習・交流 | 高齢者支援・世代間交流 | 心のケア・健康管理 | 生活再建・地域づくり | 地域人材育成 | その他 |
| | | | | | |

**◆図書関連ボランティア「キラ☆キラ」**

新刊のコーティングや飾りづくり、読み聞かせなど「通いたくなる図書室づくり」に欠かせない存在として活躍中。村図書館ボランティアグループ『あっぷっぷ』のみなさんを中心に、**長い目で子どもたちを見守るやさしいひかり**として頼もしい存在となっている。

**◆授業サポーター「THE STARS☆☆☆」**

毎年、先生も子どもたちもボランティアさんも大満足の『ミシン・裁縫名人』。ミシン一台につき一人の大人がつくため、わからないところもすぐに解決！ほかにも『昔あそび名人』『米・豆腐づくり名人』など、**地域のスターが輝いている！**

**◆環境整備「ひかりの日」（毎週木曜）**

環境整備（草とり、窓ふきなど）を中心に、毎週木曜日をボランティアさんに自由に来ていただけるよう設定。今年度、10月に試験的に行い、4回、のべ15名（実数8名）の方が協力してくださった。業間休みに遊んでいる子どもたちを見ながらの休憩時、「これで元気が出る」との声。**学校が「ひかり」であり、地域のみなさんが「ひかり」である。**

取組の変遷

## 準備段階

◇被災による課題

野田村では、津波により甚大な被害があり、地域のコミュニティが崩壊し、再構築をしなければならない状態になっていた。

しかし、震災後の地域住民の取り組みから、コミュニティの大切さが再確認されるようになった。そこで、新たなネットワークの下、地域のつながりを持った事業を推進していく必要がある。

◇住民等からの要望・必要な取組

・学校を核としながら地域のコミュニティを再生していく仕組みが欲しい。
・子どもたちのためにもっと役に立てる活動がしたい。
・野田村の未来を築く子どもたちと地域住民がもっと触れ合える機会が欲しい。

## 体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

・図書館ボランティア『あっぷっぷ』 … 読書推進の支援
・村内各事業所 … 総合的な学習の時間、社会科見学の受け入れ
・野田村老人クラブ連合会 … 授業支援、環境整備
・野田村社会福祉協議会 … 各種体験活動等の連絡調整

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・学校側のニーズを的確に把握した新たなボランティアの取り組みの周知
　〇家庭科の授業でのミシン操作の支援
　〇豆腐作り等、地域の伝統を伝える取り組みの講師
・学校支援の取り組みを村内に知らせる「ひかり通信」の発行
・ひかりの日（毎週木曜日いつでも誰でも来校して構わないという日）の設定

## 成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

・学習発表会の道具作りの呼びかけに地域住民が参加してくれるなど、通信の発行が機能している。
・ひかりの日の設定により、団体に所属していない地域住民も学校に足を運ぶようになった。
・学校に多くの人が集まりボランティア活動をすることによって、学校を核としてコミュニティの再生が図られつつある。

◇課題や今後の展望

・安定して学校を支えられるボランティアの人数を確保するためのシステムを構築すること。
・今以上に、学校が地域のコミュニティとして機能するための仕組みづくりを継続すること。
・ボランティアと子どもたちがより近い距離で気持ちを通わせながら活動できる場の工夫をすること。
・高齢者だけではなく、現ＰＴＡ会員も含めた形でのボランティアのネットワークを構築すること。
・ブックコーティング等、ボランティアのスキルアップを図るための研修会を設定すること。